

災害廃棄物輸送用コンテナの資源循環局旧栄工場での保管について

今後の巨大地震発生時への備えとして災害廃棄物の広域処理に使用するコンテナの保管について環境省から依頼があり、横浜市では資源循環局旧栄工場（栄区上郷町1570-1）で47基保管することとし、その準備を進めています。

なお、コンテナは、岩手県陸前高田市・大船渡市・釜石市が東日本大震災で発生した災害廃棄物を広域処理する際に使用したもので、洗浄、再塗装し、空の状態での搬入します。

1 コンテナの概要

- ・長さ 371.5 cm × 高さ 250.0 cm × 幅 245.0 cm
- ・自重 2.1 トン
- ・内容積 15.9m³
- ・現在、神奈川臨海鉄道㈱「横浜本牧駅」に一時保管
- ・災害廃棄物を最後に搬出した日（平成25年9月～平成26年1月）に、コンテナに廃棄物を積み込んだ状態で、コンテナから1m離れて測定した空間放射線量は、1時間あたり0.03～0.07マイクロシーベルト



直近の放射線測定結果（平成26年8月21日測定）

旧栄工場投入ステージ 0.04～0.05 マイクロシーベルト、

同 工場敷地境界 0.05～0.06 マイクロシーベルト

コンテナ内部の放射線測定結果（平成26年8月27日測定）

コンテナ外側から1cmの距離 0.04～0.05 マイクロシーベルト

コンテナ内側から1cmの距離 0.03～0.04 マイクロシーベルト

2 住民説明会の実施

8月24日（日）、28日（木）に搬入する旧栄工場周辺の自治会町内会（上郷町内会、長倉町自治会、上郷ネオポリス自治会）の皆様へ住民説明会を実施しました。

（参加者；延べ35名）

住民説明会での主なご意見及び質疑応答等

- ・なぜ栄区（旧栄工場）で保管するのか。各区に分散して置いてもいいのではないか。

旧栄工場は、資源循環局内施設の内、屋内で 47 基を保管できるスペースがあること。また、耐震性が十分であり、津波の恐れがなく、高速道路に近いからです。

- ・コンテナには災害廃棄物が入っているのか。また、今後、災害廃棄物を保管することにつながるのではないか。

コンテナの中は空であり、本市に届く前に洗浄・塗装をしています。また、今後、災害廃棄物を保管することはありません。

- ・コンテナの放射線量が心配だ。今後も定期的に測ってほしい。

コンテナの放射線量は、皆様の地域の空間放射線量と同じであり、放射線の問題はありません。放射線量を心配されるご意見をいただいておりますので、今後も測定し、測定結果をホームページで公表します。

- ・安全が確認されれば反対する理由はない。
- ・なぜ 47 基なのか。被災地支援をした経験から 47 基では少ないと感じる。

3 今後の進め方

(1) ホームページでのお知らせ

住民説明会でいただいた主なご意見及びご質問に対する本市の回答・見解、放射線量測定データや今後の状況等について、資源循環局・栄区のホームページでお知らせします。

(2) 栄区役所での資料提供

総務課窓口において、資料を提供します。

(3) コンテナの搬入

コンテナの搬入は、10 月下旬を予定しており、横浜横須賀道路「朝比奈インターチェンジ」から環状 4 号を通り搬入します。

4 その他

ご意見、お問い合わせがありましたら、次までお願いいたします。

- ・横浜市資源循環局総務課

電 話 : 045 - 671 - 2501

F A X : 045 - 641 - 1807

- ・栄区役所総務課

電 話 : 045 - 894 - 8311

F A X : 045 - 895 - 2260